

## 大引受け プラボルト 65型・105型

## ■設計施工時の注意

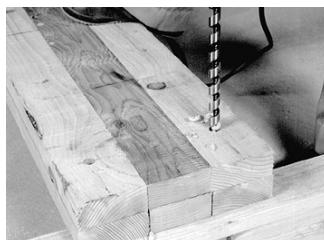
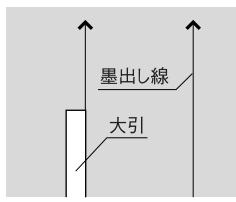
## △注意

- コンクリートの床表面は、プラボルトが安定よく接着できるように、できるだけ平滑に仕上げてください。また、コンクリート床面を清掃ください。(特にノロの発生部分にご注意ください。)
- スラブ面よりプラボルトの大引受け部までのH寸法は、65型では65mmまで、105型では105mmまでに設定してください。
- ころばし大引IH寸法は45~60mmに設定してください。なお、根太H寸法との合計が、90mm以上になるようにご注意ください。(プラボルト上部が根太上に飛び出し、下地合板などにあたります。)
- ころばし大引間隔は、900mmピッチ以内で設置してください。(荷重などを考慮し、ピッチ寸法を決定願います。)
- プラボルト設置間隔は、45×105大引の場合で900mmピッチを標準とします。その他の場合は荷重などを考慮しピッチ寸法を決定願います。
- コンクリート埋設配管箇所は、プラボルト内蔵のコンクリート釘打込み(スラブ面より15mm深)により破損する場合があるため、避けてください。
- 床下ころばし配管類は、プラボルトに直接触れないように配管手配してください。
- 大引き、根太は乾燥材(含水率20%以下)をご利用ください。

## ■施工手順

## ①スラブ墨出し／大引穴明け

- 大引を流す方向へ、スラブ面への墨出しをします。次に、プラボルト設置間隔に合わせ、大引にφ19~20mmの穴を開けます。
- ※大引を重ねての穴明けが可能です。



## ②プラボルトの取付け／接着剤の塗布／大引の据付け

- 大引に明けた穴にプラボルトを差し込み、仮止めします。

## △注意

- この時点で、ワッシャー、ストッパーをゆるめに仮止めしておくと、据付け際にボルトが脱落するのを防げます。(取付けはワッシャー、ストッパーの順です。)



- プラボルト裏面に専用接着剤を適量塗布します。(1個につき20~25g)

## △注意

- 専用接着剤は初期硬化タイプですので、塗布後すぐにスラブ面に貼付けてください。※塗布の際に要らない木片などを利用すると便利です。



- 接着剤の塗布後、スラブの墨出し線に合わせて大引を据付けます。

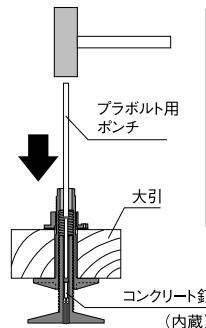


## △注意

- 接着剤が硬化するまでに位置決めをしてください。(目安として、10分以内)

## ③コンクリート釘(プラボルト内蔵)打込み

- 付属のコンクリート釘打込み棒で、プラボルト内蔵のコンクリート釘をスラブへ垂直に打込んでください。(釘の打込み深さは最大15mm)



## △注意

- コンクリート内の骨材等により貫入不能の場合は、その時点でお止めてください。
- 接着剤の塗布・コンクリート釘打ち後(冬期を除き)1~2時間後にはレベル調整が可能です。レベル調整時にプラボルトが動かないことを確認してください。

## ④レベル調整

- 水準器、水糸などを使って高さを調整し、レベルを出します。プラボルトの高さ調整は同梱の固定治具(小径側)を使ってください。



## ⑤ストッパーの締付け／ストッパー(ワッシャー)固定釘打ち

- レベル調整後、同梱の固定治具(大径側)でストッパーを締付けます。次に、ストッパー(ワッシャー)を締付け後、ストッパー3箇所の釘穴のうち釘の打ちやすい穴に1箇所、同梱の固定釘を打付けてください。

## △注意

- あまり強く締付けるとストッパー破損につながる恐れがありますので、ハンマーで叩いたり、無理に締付けることは避けてください。
- 釘打ち時に大引受け部頭部を、金槌で打たないようご注意ください。



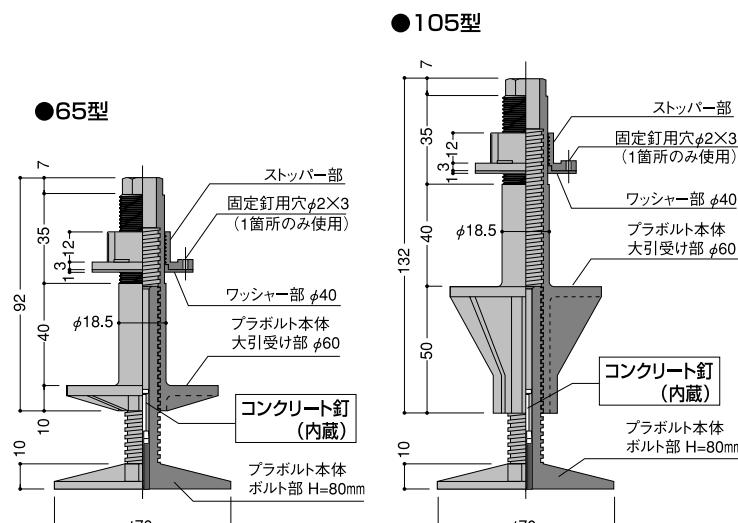
## ⑥プラボルト設置完了

- 床貼り前に、施工手順に準じ適切に施工されているかご確認ください。
- 根太を取付け、床を仕上げます。

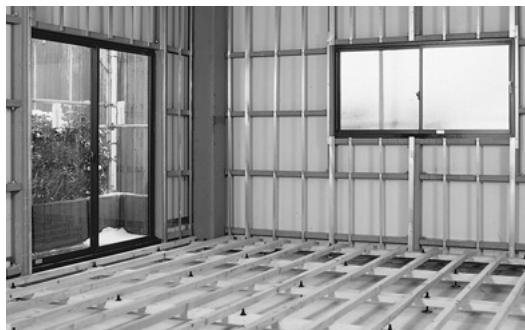
## ■構成部材



## ■製品図 S=1/3



## ■納まり参考図



寸法調整範囲H: 65型は20~65mmに対応、  
105型は60~105mmに対応します。

## ■平面詳細図例

